

# 環境市民 中期計画(2020～2024)案

## 1 環境市民のビジョン

「持続可能で豊かな社会」

「持続可能で豊かな社会・生活」とは、すべての生きもの・人々が、いつまでもいきいきと暮らせる社会・生活。

具体的には、私たちはこんな世界をイメージしています。

海は青く澄み、川には魚が泳ぎまわり、

山にもまちにも緑があふれ、夜空には星が美しくまたたき、

生きものたちは絶滅の危機にさらされることなく生を尊ばれ、

人々は他者と競い合うことなく共に助け合い、

金儲けだけの仕事に追われることなく、

子どもたちは未来に目を輝かせ、

齢を重ねた老人たちはその知恵と経験を敬われ、

誰もが社会の主人公として輝き、

宗教や肌の色の違いで殺し合うこともなく、

異なる文化を認め合い、飢えも戦争も差別もない……世界。

残念ながら、現代はこれとはほど遠い社会・生活です。しかし、私たち市民の手で、いつかこんな世界を実現したいと考えています。

環境市民では、このビジョン実現のため、以下の理念を大切にし、5つのミッション（使命）を掲げて活動しています。

## 2 環境市民の大切にする理念

理念は活動を組み立てる、行動する上で基礎となる考え方です。環境市民では創設以来、その活動を通じて次の理念を大切にしてきましたが、この中期計画で明記することにしました。

- ① 真の民主主義社会をめざし、その主人公としての市民であることを自覚し行動する
- ② 専門性豊かな活動と誰もが参加できる活動を結びつける
- ③ 地域から日本を変えていき、世界の変革に貢献する
- ④ パートナリシップで相乗効果を発揮し、社会的な影響力を創出する
- ⑤ 人、団体、社会の多様性、そして地球環境の多様性を大切にする

### 3 環境市民のミッション

下記のミッションを実現するプロジェクトに際しては、国内外の NGO 等との連携協働を重要視して進めます。

#### ① エコシティーを創る

・エコシティーづくりに、全国各地の先進的な自治体、志を共にするNGO、そして学識者とともに、戦略的な協働ネットワークを構築し具体的な取り組みをすすめていきます。現在、日本では地方行政や議会の評価は新自由主義的人員削減、組織縮小などが軸となっています。このような方向では住民の QOL の増大や、まして持続可能な社会など望めません。環境市民では自治体の評価軸として SDGs の推進・持続可能な社会づくりを指標にした本質的な評価軸を多様なステークホルダーとともに創出し、自治体や日本社会に提案し、活用をもとめていきます。

・日本が他の民主主義国と大きく異なる点の一つは NGO/NPO セクターが行政や議会の政策形成過程に参画する仕組みがなく実施にも参加できていないことです。私達のアドボカシー力が足りないともいえます。環境市民では他の NGO/NPO とともに 5 年前から「あどぼの学校」を始めてこの分野の改革を進めています。今後は各地の状況にあわせた「あどぼの学校」の水平展開を図っていきます。

#### ② 経済をグリーンにする

・経済活動によって私たちは多くのモノを安く容易に得られるようになりましたが、その半面、私たちは地球温暖化や資源涸渇などや、深刻な環境問題、人権問題等と向き合わねばならなくなりました。環境は経済の制約条件ではなく、今や環境を大切にすることなしに経済の発展は難しい時代になっています。しかし、一企業の努力だけでは限界があり、経済システムそのものを環境に配慮したものに変える必要があります。

・大量消費、大量廃棄型のモノやサービスの生産、製造、流通のあり方を、「経済のグリーン（環境に配慮し、持続可能なもの）にする」ため、生活者・消費者の視点からグリーンコンシューマー活動の拡大とともに、人権等を重んじたエシカル消費の推進を合わせた活動を多様な NPO とともに具体化し継続していきます。

また消費者の視点から商品選択を誤らせる「グリーン・ウォッシュ」「ブルー・ウォッシュ」『SDGs ウォッシュ』をなくしていくための仕組みづくりに取り組みます。

・さらに経済に大きな影響力がある企業との SDGs の推進等に関してパートナーシップによるプロジェクトを呼びかけ、環境に配慮した経済システムへの転換を促しています。

#### ③ 豊かなライフスタイルを創造する

・社会経済システムの転換と、私たちの価値観・社会のパラダイムを反映したライフスタイルの転換は、持続可能な社会をつくる両輪です。

・そのために、環境を大切に、シンプルでほんとうの豊かさを得られる暮らし方を提案します。具体的には、私たちが毎日のようにする買い物を、より環境性能が高いもの、環境負荷の少ないものを積極的に選ぶグリーンコンシューマー活動に人権などの倫理的要素を加えた持続可能な消費へとステップアップさせ、世界の多様な課題への広がりある活動を全国的に展開していきます。グリーンコンシューマー活動、持続可能な消費活動はライフスタイルを変えるだけでなく、企業や経済システムを変えていく力のある活動です。

・また、人間らしい暮らしに欠かすことのできない自然との共生を楽しむ機会の提供も重要です。自分の暮らしをエコロジーで楽しくおくことができる人が増えることは、遠回りのようでいて実は確実に経済社会を変革する力になります。こうしたエコロジカルで本質的に豊かなライフスタイルを具体的に提案し、生活者の観点から社会に働きかけます。

#### ④ エコロジーな次世代を育む

・持続可能で豊かな社会を築いていくためには、経済・社会システムを変えるとともに、一人ひとりの意識・パラダイムを変革し、ライフスタイルや行動を変えていく必要があります。そのためには、知識偏重型でなく、豊かな感性を育み地域や社会の課題を自らの行動で解決していく能力を高める観点の環境教育の実践が重要かつ必須です。

・特に、子どもは近未来の大人であり、子どもへの環境教育は未来への投資といえます。ただ、環境教育の対象は子どもにとどまりません。子どもは周りの大人や、身をおく社会のあり方から大きな影響を受けます。子どもがそのもてる可能性を開花できるように、また大人自身が、自らの意識と行動を変えていけるように、環境教育の担い手づくり、プログラムの開発普及に力を入れ、全国各地で環境教育にとりくむ NGO、自治体、学校等と連携を強め、他のミッションに基づく活動とも戦略的にリンクさせて環境教育を展開します。

・幼児期から小学校低学年期の自然体験はその重要性に反して現代社会ではともすれば不十分になりがちです。このような事態を変えていくために幼稚園、保育園、小学校での取り組みやすく効果のある自然体験プログラムを創出し提供していきます。

#### ⑤ 組織をイノベーションし、より創造的な活動を持続的に行なえる環境市民にする

・環境市民は、本気で日本社会を持続可能で豊かな社会に変えていこう、と活動を続けて来ました。4半世紀にわたる活動で、環境自治体づくり、グリーンコンシューマー、環境共育、自治体や企業とのパートナーシップづくりなどで、日本の環境 NGO としてかなりの成果を上げたものもあります。ただ、まだまだ日本社会を変えていく力強い活動は作りきれいていません。また財政的には、年度ごとの収支がギリギリ黒字か赤字になっているように基盤が脆弱な状態が続いています。

・主張すべきことは主張する一方で、具体的に社会を変えていくために自治体、企業に働きかけ、パートナーシップ活動にも取り組む環境 NGO としてどのような組織(会員制度のあり方、理事会の機能と役割、広報手段、法人格の選択、事務局体制等)がふさわしいのか、

志を形にできる組織としてどのような形態がよりふさわしいのか、ファンドレイズをどのように行なっていくか、

・さらに持続可能な組織とするための担い手の世代交代をどのように進めていくか、これらの課題に、理事会が責任と率先性をもって取り組み、2020年度末までに戦略と構想を明らかにし、必要なイノベーションと改革を実行していきます。

#### 4 ミッションを達成するために実施するプロジェクト

##### ① エコシティーを創るに関するプロジェクト

###### プロジェクト1

環境首都創造ネットワークと環境自治体会議が合併し誕生する新たなネットワーク組織で会員となる自治体、専門家、NPO とともにプロジェクトチームを作り、SDGs の推進及び持続可能な地域社会の視点からの自治体の評価軸を検討し、評価軸の提案・公表します。そして会員自治体(自己)評価を試行し、有効性を確認し、より良い評価軸に更新して公表します。

###### プロジェクト2

影響が顕著化してきた気候変動に対して、温室効果ガスを削減する緩和策とともに、変動する気候への適応策が重要になっています。

気候変動が未来のことではなく今現在に起きて進行している問題であることを市区町村と住民等自らで具体的に理解する、また、得られた情報を見える化し地域へ周知することを実行し、緩和策とともに地域にとって必要な気候変動適応策を具体的な場所、モノ、起きている事柄からイメージする、そこから自分事化し、公助・自助・互助のアクションを立案、実行していく、という内容のある共創プログラム（地域住民等主導の気候変動適応の共創プログラム、以下「適応共創プログラム」と略す）を開発し、試行します。

###### プロジェクト3

地域にしっかりと根付き、全国や世界に影響力のあるエコシティーづくりのためには、私達自身がアドボカシー力を付け、それによって、地域・全国・世界の民主主義をしっかりと育み、深めていくことが必要です。そのために、2015年度から関西・中部の市民社会有志が進めてきたアドボカシーの学びと実践の共有の場「あどぼの学校」プログラムの地域と全国での展開をさらに進めていきます。

具体的には、「あどぼの学校」講座を関西・中部（京都、岐阜、名古屋等）をはじめ、全国で継続的に実施することを目指し、さらにオンラインや全国規模の集い・合宿等を通じて全国の仲間や学び・実践間のつながりを創出することを目指します。

た、こうした学びをベースに、全国各地域で地域の状況やニーズに合った「ローカル・アドボカシー・モデル」の実践例を作り出していきます。京都市域では、2020年度

に立ち上げた市民社会と市議員との懇談会をベースに、分野を超えた市民社会の政策対話・提言・協働力と実績を積み上げていくことを目指します。

さらに、上記のような活動をさらに広げ、持続可能なものとするため、各種媒体（ウェブサイト、SNS、発行物等）による情報発信や、全国の「あどぼの学校」の仲間・学び・実践のプラットフォーム化を目指します。これらの取り組みの全国事務局を担うプロジェクト推進組織を、(特活) 泉京・垂井と環境市民の協働によって立ち上げます。

## ② エコロジーな次世代を育むに関するプロジェクト

### プロジェクト 1

一人ひとりの意識・パラダイムを変革し、ライフスタイルや行動を変えていくには、豊かな感性を育み地域や社会の課題を自らの行動で解決していく能力を高める観点の環境教育の実践により、エコロジーな次世代をともに育むことが求められています。

具体的には、「京の杜プロジェクト」や消費者団体と連携して、家庭での生ごみの堆肥化と落ち葉を活用した堆肥で新たな緑を育てる循環型社会を目指すとともに、農業体験を地域の大人と子供たちが担い、交流を深めることで、命の循環と心の教育を目指したプロジェクトを行います。

コロナで「食と農」への関心が高まっている今、農業への入口づくりや食品ロス問題への情報発信、またボランティアがゆるやかに参加できる場「環境市民ひろば」の活動につなげていきます。

## ③ 豊かなライフスタイルを創造するに関するプロジェクト

### プロジェクト 1

エシカル消費、グリーンコンシューマーの活動は、消費者ライフスタイルを変えながら、事業者の経営スタイルをも変えていく影響力をもっています。ただ、実践するには企業の CSR 活動の実態や商品の製造、流通時の環境影響、社会的影響が分かりやすい情報が必要です。環境市民では、多様な NGO とともに消費から持続可能な社会を創る市民ネットワーク (SSRC) を形成し企業評価の「企業のエシカル通信簿」、商品情報の「ぐりちょ」で情報提供を始めていますが、より分かりやすく影響力のある情報コンテンツを開発し、公開していきエシカル消費の日本社会への定着をめざします。

2020年5月25日